

從て選舉を争ふ候補者が多し、選挙人の数がそれ減少する事になります。選挙の弊害は選挙人の数が少いこと存すれば之に依り弊害は益々増大して来る譯合であります。假に從來の一選挙區たる一縣が十個の選挙區に分れたとすれば一方に於て選挙有権者の数は一倍に増加しても結局五分の一に相手をする人が減じたことなる。從て買収請託交渉の不正武裝を棄置すべき相手が減るので此武裝の威力は各人に對して五倍の効果を發揮する譯です。無論實際に於てはそんな机上の數字通りに行くものではないけれども大勢は正に其通りで選挙腐敗の原動力に於て増大する以上將來の版圖は之を馳せしめて明かなる次第であります。これをもし改選と謂はすして制しむべしや。吾々は斯の如き惡法を廢して此上更に弊害を助長することに對して我々は出來ぬのであります。尙更に一歩を進めて考へなければならぬ點は現在の如き納税本位の勸業を此儘維持することが今日の時勢に臨みて我國家前途に於て果して危險なきを得るか否か云ふことでもあります。今の政府は財産を持つた一部分の人に屬する而して國民の大部分

分は之から除外せられて居る。斯の如きことは日本一國で他國にはないとして果して彼等大部分の國民が不平なきを得るか。今迄氣が着かなかつたこと云ふものゝ善く考へて見れば馬鹿な談だ考へて見ればこれでは徳川時代と幾何の差別があるかとは彼等各自の頭に萌して來たのであります。徳川時代には政府が武士階級に屬した。其数は幾何あつたか百萬もあつたらう。當時の人口は三千萬に足らず、今の國民は六千萬にして参政権者は二百萬内外、其處に於て維新の進歩があるか、而も昔の参政権者は之に治國天下の道を講じしに當り維新の教に志す、今の新式武士は其心掛くる間違れ拜金宗、これで政治が善く行く道理がない、殊に其爲す所皆是れ有産階級位位々多數の無産者の利益云ふものは全然眼中に置かれないではないか。さば次第に彼等の胸中に漲り來つた不平不満の聲であります。徳川時代には人民に對して所謂答來て通れ「身の程を知れ」上を見なとそれでは人民の指導が出來た。今はさうお安くは參らぬ。外國の生きた事が耳目に觸るゝ以上人民も何時迄も愚にせられては居らぬ。直接税は拂はぬとも毎日間接税は拂つて國費は同じ